

南中講地区遺跡  
速日峰地区遺跡  
妙見原遺跡  
種蓄牧場地区遺跡  
川久保遺跡  
元野地区遺跡

平成6年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告

平成7年3月

宮崎県教育委員会

南中講地区遺跡  
速日峰地区遺跡  
妙見原遺跡  
種蓄牧場地区遺跡  
川久保遺跡  
元野地区遺跡

平成6年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告

平成7年3月

宮崎県教育委員会

## 序

日ごろから埋蔵文化財の保護・活用に対し、深いご理解をいただき厚くお礼申し上げます。宮崎県内各地では、各種の農業基盤整備事業が実施されておりますが、事業実施予定地内にも多くの遺跡が存在し、文化財の保護と農業基盤整備事業との調整がひとつの課題となっております。県教育委員会では、農政部局との協議資料として、事業実施予定地内の分布調査や発掘調査を実施し、遺跡の所在の有無、性格、範囲等の基礎資料を作成しております。

本報告書は、平成6年度に試掘調査を実施しました田野町元野地区遺跡など6か所の調査結果についての概要を報告するものであります。これらの調査結果が、文化財の保護に生かされるとともに、地域の歴史の解明、また社会教育の場で活用されるなど、役立てていただければ幸いに存じます。

最後に、調査にあたってご協力をいただいた地元の土地改良区ならびに市町村教育委員会、各農林振興局などの諸関係機関の方々に厚くお礼を申し上げます。

平成7年3月

宮崎県教育委員会

教育長 田 原 直 廣

## 例　　言

1. 本報告書は、宮崎県教育委員会が平成6年度の国庫補助を得て実施した発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、宮崎県内の農業基盤整備事業に伴う遺跡の確認調査として実施した。
3. 遺跡の名称は、現在遺跡として報告されておらず、今回の分布調査、試掘調査等で確認された遺跡については、農業基盤整備事業の地区名を使用している。また、遺跡の推定地が広範囲で、その中に数か所の遺物散布地等がある場合には、「遺跡群」と表現している。正式な遺跡名は、本調査に伴い字名などを参考に命名される予定である。
4. 発掘調査は、県文化課埋蔵文化財第二係係長面高哲郎、同主査石川悦雄、同主査永友良典、同主査皆付和樹、同主事東憲章が担当した。また、発掘調査にあたっては関係市町村教育委員会及び当該地区的県農林振興局等の協力を得た。
5. 本報告書の執筆は各担当者が当たり、編集は永友がおこなった。
6. 出土した遺物は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで保管している。

## 目　　次

第1章 平成6年度発掘調査の概要.....	3
第2章 発掘調査の結果.....	4
第1節 南中講地区遺跡.....	4
第2節 連日峰地区遺跡.....	7
第3節 妙見原遺跡.....	11
第4節 種畜牧場地区遺跡.....	14
第5節 川久保遺跡.....	17
第6節 元野地区遺跡.....	20

# 第1章 平成6年度の発掘調査概要

平成6年度の農業基盤整備事業に伴う発掘調査は、ほ場整備事業、農地保全事業、広域農道建設事業、農免道路建設事業、及び国営農業水利事業等の農業基盤整備に関する各種開発事業のうち、今年度及び来年度以降の実施予定地について分布調査を行い、そのうち20か所について確認調査を実施した。

平成6年度確認調査一覧

遺跡名等	所在地	調査期間	調査担当
1 早日渡地区遺跡	東白杵郡北方町巳	H6.4.26	菅付和樹
2 北田地区遺跡	児湯郡新富町大字上富田	H6.5.23~6.2	菅付和樹
3 黒草地区遺跡	宮崎郡田野町黒草	H6.6.2~6.6	石川悦雄
4 平城遺跡	西都市大字三納	H6.7.15	菅付和樹
5 細井地区遺跡	北諸県郡高城町大字有水	H6.8.8~8.9	永友良典
6 牛牧地区遺跡	児湯郡高鍋町大字上江	H6.8.16~8.26	菅付和樹
7 中尾地区遺跡	宮崎郡田野町斧砥	H6.9.13~9.14	西高哲郎
8 南中講地区遺跡	南那珂郡南郷町大字樅原	H6.9.20~9.22	永友良典
9 六本原地区遺跡	えびの市大字大明司	H6.10.3~10.5	永友良典
10 福荷下地区遺跡	えびの市大字坂元	H6.10.27~11.2	永友良典
11 速日峰地区遺跡	東白杵郡北方町巳	H6.11.7~11.10	菅付和樹
12 妙見原・狐塚地区遺跡	えびの市大字杉水流・末永	H6.12.6~12.13	永友良典
13 種畜牧場地区遺跡	小林市大字細野	H6.12.14~12.16	永友良典
14 亀沢地区遺跡	えびの市大字亀沢	H6.12.27	永友良典
15 川久保遺跡	東白杵郡西郷村大字田代	H7.1.9~1.19	菅付和樹
16 元野地区遺跡	宮崎郡田野町元野	H7.1.23~2.3	菅付和樹
17 横市地区遺跡	都城市横市町	H7.3.6~3.8	永友良典
18 小川地区遺跡	東白杵郡西郷村大字田代	H7.3.13~3.16	菅付和樹・東憲章
19 細井地区遺跡	北諸県郡高城町大字有水	H7.3.14~3.17	永友良典
20 時屋地区遺跡	宮崎市大字細江 宮崎郡清武町大字船引	H7.3.27~3.30	菅付和樹

## 第2章 発掘調査の結果

### 第1節 南中講地区遺跡

#### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

南中講地区遺跡は、南郷町大字複原丙から同複原乙にかけて建設が計画されている県営ふるさと農道緊急整備事業南中講地区内に分布する遺跡群の仮称である。遺跡は東流する南郷川の左岸に開拓された小丘陵上に点在しており、折生野遺跡、弓田遺跡、中ノ追遺跡、田尾原第1遺跡等の縄文時代を中心に、弥生時代、近世等の時期の遺跡が分布する。標高は50m～35m、水田からの比高差35m～20mである。

なお、対岸の下講地区には縄文時代後期の阿高系の土器が多量に出土した崩野遺跡が所在する。

県営ふるさと農道緊急整備事業南中講地区的事業は、南郷川の左岸に開拓された小丘陵上を横断する形で南郷川に沿って走る国道220号線と平行するように農道が建設される。6年度から工事に入っており遺跡の真ん中が農道路線となっている中ノ追遺跡と田尾原第1遺跡について県文化課で平成6年9月20日及び22日の2日間確認調査を実施した。

#### 2. 試掘調査の概要

##### (1) 中ノ追遺跡

確認調査では重機（バックホー）を使い5か所に2m×4mのトレンチ（試掘坑）を20m～25m間隔を基本に入れて調査した。基本土層はI層：表土、II層：黄褐色土（二次堆積アカホヤ？）、III層：アカホヤ火山灰、IV層：褐色土、V層：暗褐色土…が確認された。

調査したトレンチのうち、東側のT2、T3のトレンチでは深さ110cm～120cmのV層（暗褐色土）上部で20個程度の焼け石が検出された。共伴の土器、石器類は検出されなかった。T1トレンチでは遺構、遺物の検出はされなかつたがT2、T3トレンチで焼け石が検出されたV層（暗褐色土）は残っている。

また、西側のT4、T5トレンチではすでにかなりの深さ削平されており遺構、遺物の検出はされなかつた。

##### (2) 田尾原第1遺跡

中ノ追遺跡同様、重機（バックホー）を使い3か所に2m×4mのトレンチ（試掘坑）を20m～30m間隔に入れて調査した。基本土層はI層：表土、II層：黄褐色土（二次堆積アカホヤ？）、III層：アカホヤ火山灰、IV層：黒褐色土、V層：暗褐色土…が確認された。中ノ追遺跡とは違いIII層（アカホヤ火山灰）下位が黒褐色土となる。

調査した3本のトレンチからは、それぞれ深さ110cm～160cmのV層（暗褐色土）上部で数個の焼け石が検出された。共伴の土器、石器類は検出されなかつた。

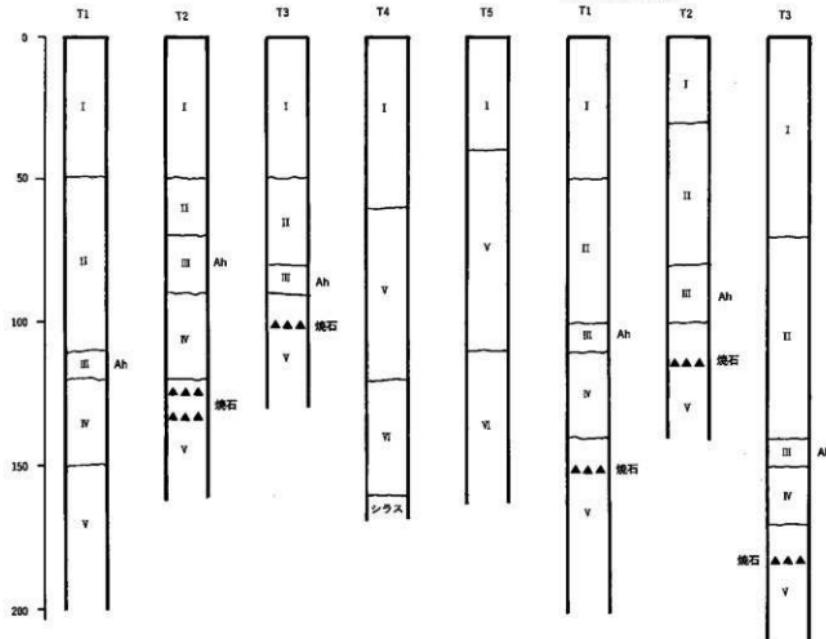
調査の結果、中ノ追遺跡、田尾原第1遺跡ともアカホヤ火山灰層下位で縄文時代早期の遺跡が確認された。中ノ追遺跡の西側（T4、T5）を除く全域で焼け石が検出されており集石遺構等の分布が想定される。

（永友良典）



南中説地区遺跡トレンチ配置図 (S=1/4,000)

① 中ノ迫遺跡



南中講地区遺跡土層図



南中講地区遺跡位置図 (1/50,000)

## 第2節 速日峰地区遺跡

### 1 遺跡の位置と調査に至る経緯

東臼杵郡北方町の速日峰地区遺跡は、町役場の北西約5.6kmの標高約160～120mの五ヶ瀬川を臨む開けた緩傾斜地に立地している遺跡群の総称である。当該地区では、平成2年度～9年度の予定で速日峰地区県営は場整備事業が実施されており、現在までに約46haのうち80%程度の事業が終了している。そしてこれに伴い、平成2年度から町教育委員会では記録保存のための発掘調査を実施している。

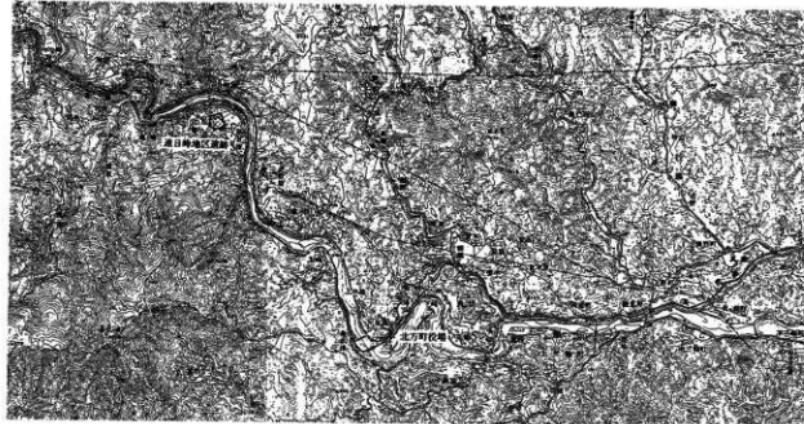
本年度は、平成5年度3次補正予算の関係や地元の同意取りの関係で確認調査が遅れてしまい、稲作終了後の平成6年11月7日～10日の4日間実施した。

### 2 確認調査の概要

確認調査を行った箇所は、北方町巳の早日渡神社の南西側に位置する標高約161mの山を中心とする階段状の水田地帯である。この地区的表面観察では遺物等の散布は見られなかった。調査は、小型のバックホーを用いて土砂を少しづつ除去し、精査と埋め戻しを人力で行った。

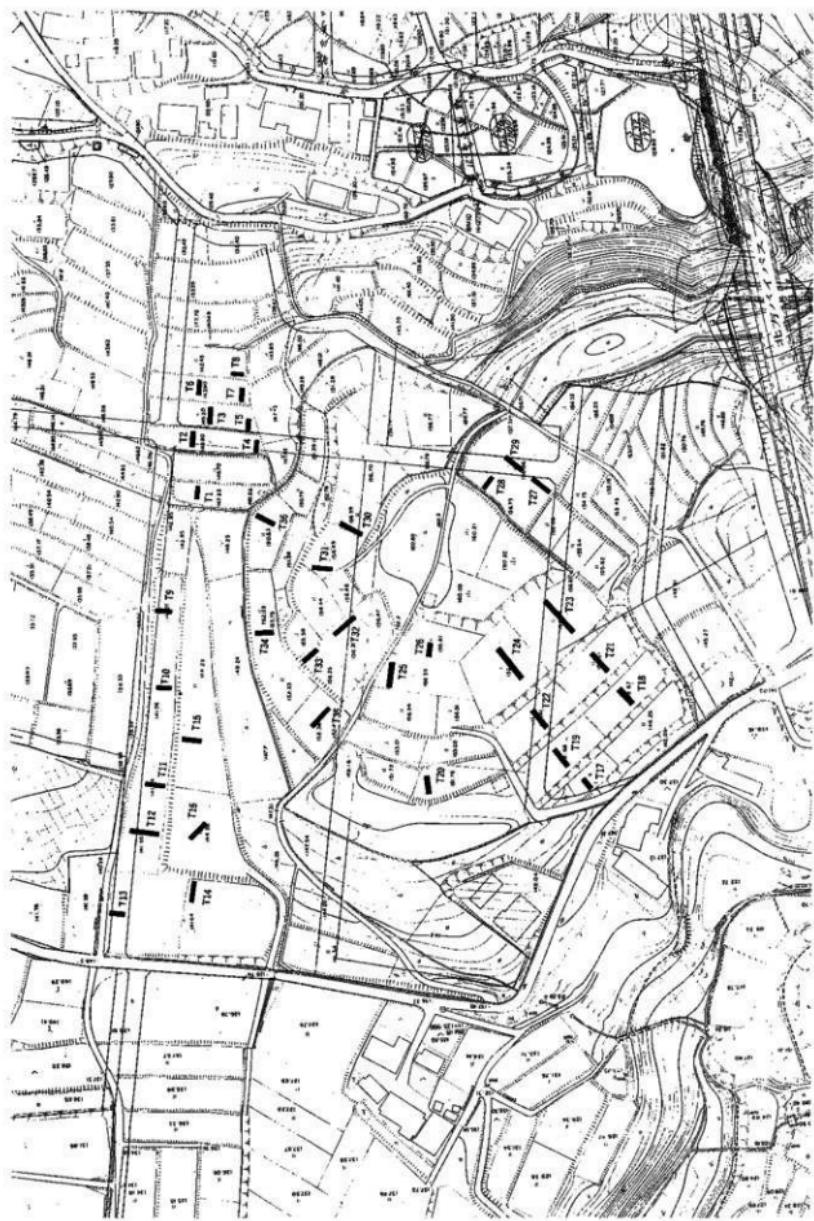
調査の結果、県北地方でよく見られる高所を削平し低い方へ土砂を盛るという棚田で通常観察されるような盛土下に造構や遺物包含層の残存が部分的に確認されるという状況がここでも確認できた。アカホヤ火山灰層が残存している箇所では上面でピット等を検出でき、その上部の黒色土中には弥生土器もしくは土師器と思われる小七器片が出土した。また、アカホヤ火山灰層の下部では縄文時代早期の遺物が出土した箇所も確認された。しかし、かなりの削平により造構遺物が確認できなかった所が多く、遺跡の残存範囲は限定されるものと考えられる。

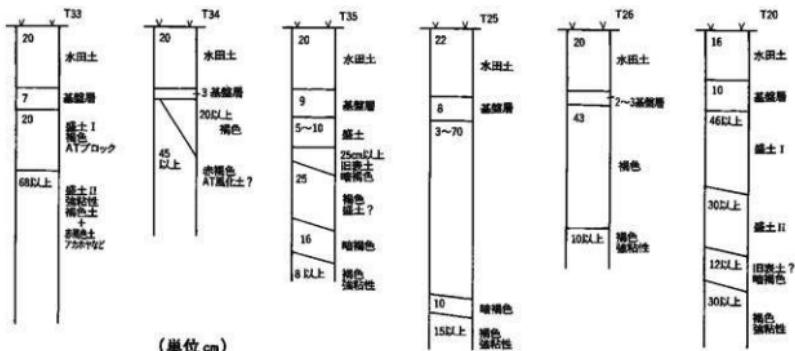
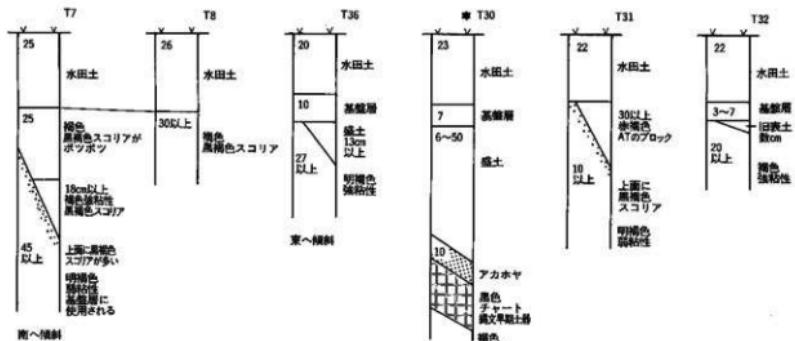
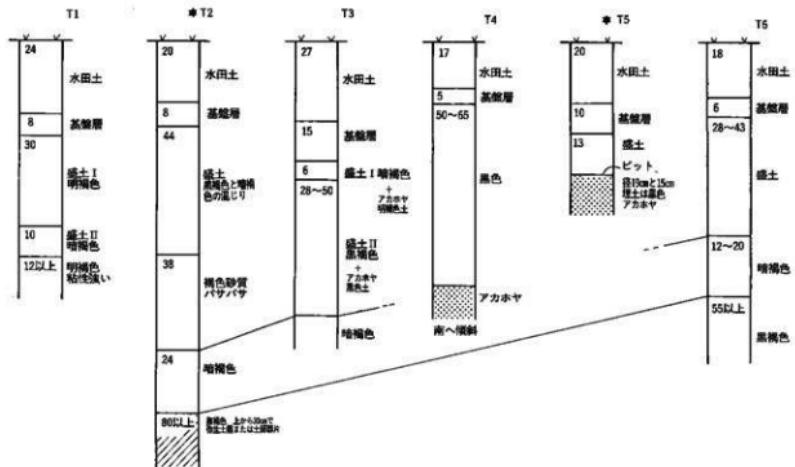
基本的にはおおよそ15cm～25cmの厚さで水田耕作土があり、その下に数cmの厚さで基盤土が盛られている。そしてその下に盛土もしくは傾斜した自然堆積土が水平に削平された状況で観察される。 (菅付和樹)



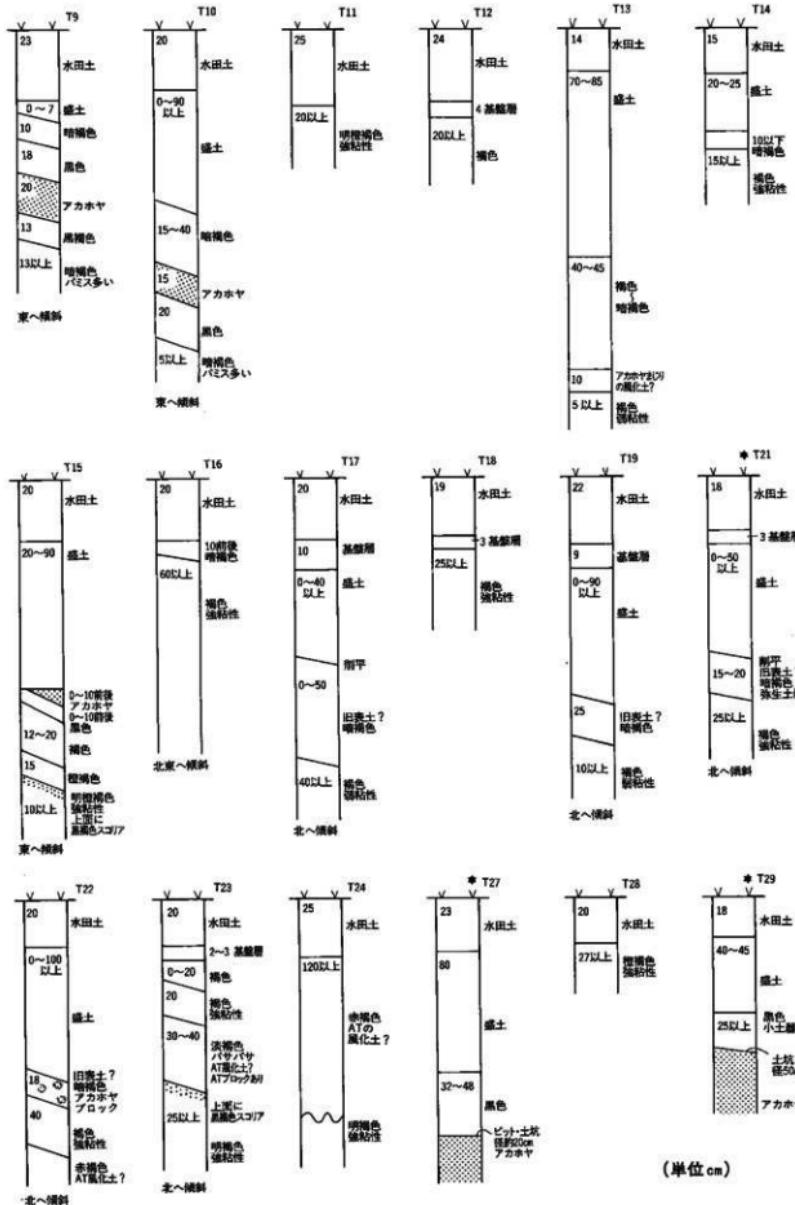
速日峰地区遺跡位置図 (1/100,000)

遠日峰地区道路レンチ配置図 (1/2,000)  
※レンチの大きさは実際より大きい。





速日峰地区遺跡土層柱状図(1)



速日峰地区遺跡土層柱状図(2)

### 第3節 妙見原遺跡

#### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

妙見原遺跡は、えびの市大字原田字妙見原に所在する縄文時代から古墳時代の遺跡である。JR豊肥線えびの飯野駅の南方にあたり川内川の支流である池島川が北を流れる段丘上に分布する。標高は約290mで池島川の沖積地との比高差は約10mである。

平成4年度から中山間地域農村活性化総合整備事業に伴い妙見原地区をはじめ田代、粥谷、狐塚、出水の各地区のは場整備事業や公園及び活性化施設の建設が進められている。平成5年度からは妙見原地区の西に広がる田代地区のは場整備に伴い発掘調査も実施されている。

平成7年度からは妙見原地区のは場整備が計画されており確認調査は7年度工事予定の台地中央の約2haについて平成6年12月6日から13日までの5日間実施した。

#### 3. 試掘調査の概要

確認調査では、調査区の中央を東西方向に若干の低地が伸びており、南北両側の微高地を中心に14か所に2m×4mのトレンチ（試掘坑）を20m～25m間隔に入れて調査した。基本土層はI層：表土・床土・客土、II層：黒色土、III層：褐色土（下位は明褐色）、IV層：アカホヤ火山灰（Ah）、V層：黒色土、VI層：明褐色土（サツマ？）、VII層：黒色土（軟質）、VIII層：灰色土（シラス？）…である。

調査したトレンチのうち、いずれも南側の微高地上のT2、T4、T13トレンチで遺物の検出が見られた。

T2ではII層は確認できずIII層上部（I層直下に近い）から縄文土器が数点出土した。IV層（Ah）より上位であることから前期以降の時期と思われる。

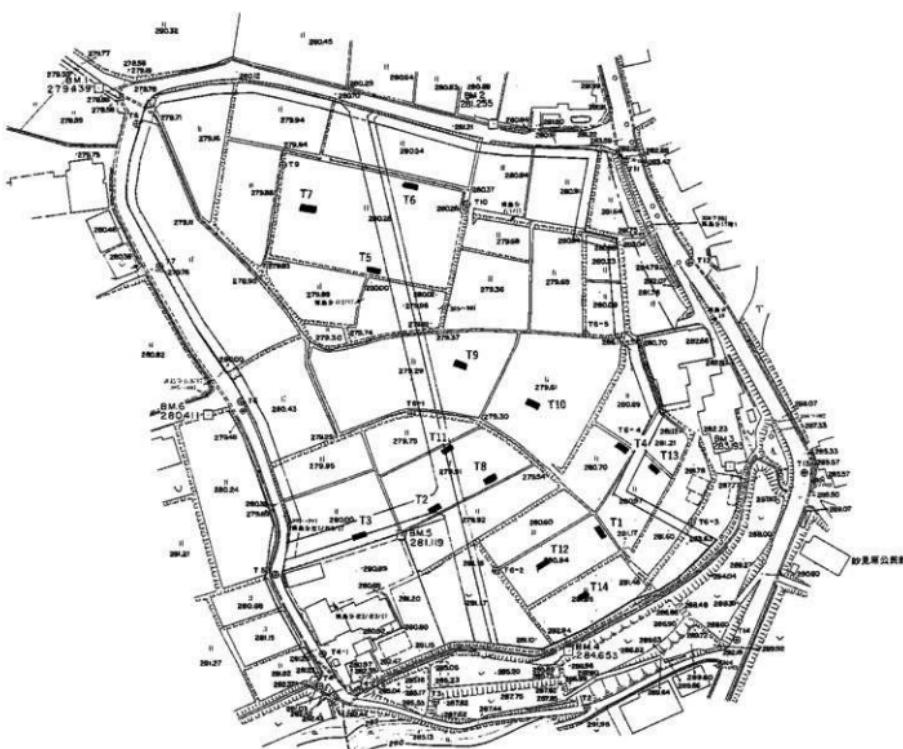
T4とT13は調査区の南側微高地東端に位置し、いずれもII層（黒色土）が残り、III層から土師器片が数十点検出されている。出土範囲はII層直下から30cm～40cmの深さのIII層上位にあたる。

調査の結果、遺跡の範囲は調査区の南側（遺物を検出したT2・T4・T13を中心にT1～T5、T11～T14一帯）に遺跡の広がりが想定される。

（永友良典）



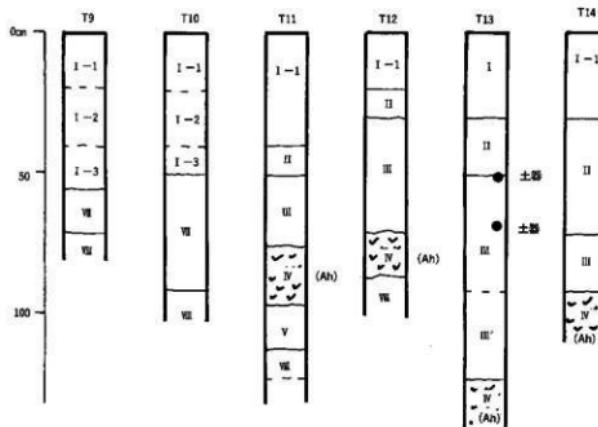
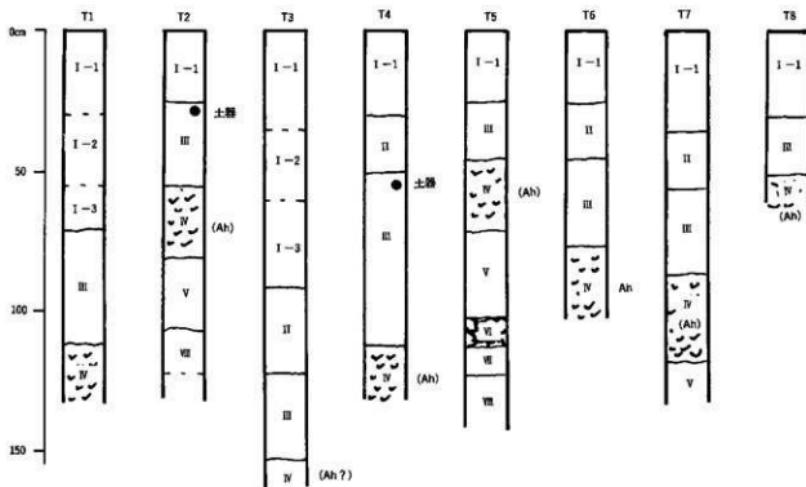
妙見原遺跡遠景



妙見原遺跡トレンチ配置図 (1/1,500)



妙見原遺跡位置図 (1/50,000)



妙見原遺跡土層図

## 第4節 種畜牧場地区遺跡

### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

種畜牧場地区遺跡はえびの市から高原町までの霧島連山北部を巡る広域農道霧島北部II期工区の小林市大字細野所在の農林水産省種畜牧場内に分布する。この一帯は夷守岳の山麓の北部にあたり火山の噴出物によって形成された丘陵が小河川によって開拓されていくつかの小丘陵を形成している。遺跡はこの小丘陵上に分布している。標高は260m~280mをはかる。

広域農道霧島北部II期工区についての埋蔵文化財については平成3年度から試掘調査および本調査を実施しているが、今回の平成7年度工事予定地の小林市南ヶ丘から種畜牧場の区内には竹山遺跡と前ノ山遺跡の2遺跡が所在し、神ノ前遺跡にも一部が隣接する。このうち、県文化課で平成6年12月14日及び16日の2日間、農林水産省種畜牧場の東牧場および西牧場について確認調査を実施した。

### 2. 試掘調査の概要

#### (1)西牧場地区

この地区は宮崎自動車道霧島サービスエリアの南西側のは場で、大王地区に通じる市道の西側(5-6は場)と東側(5-1は場)で神ノ前遺跡に南接する。確認調査では重機(バックホー)を使い西側の5-6は場に3か所(T1~T3)、東側の5-1は場に4か所の2m×10mを基本としたトレンチ(試掘坑)を20m~25m間隔に入れて調査した。明確な基本土層は確認できなかったが、I層(表土)、以下は褐色土(II層)~暗褐色土(III層)が見られ前後に火山の噴出物が堆積する。その下位に灰色土(IV層)、オレンジ層(V層:アカホヤ火山灰(Ah)?)…と続く。

調査したトレンチのうち、T1でのみ、深さ40cm~50cmのIII層(褐色土)上部で20個程度の土師器片が検出された。しかし、すぐ下位からは火山噴出物と思われる小砾が見られる。また、他のトレンチ内の土層も噴出物が複雑に絡み合った土層である。

#### (2)東牧場地区

この地区は宮崎自動車道霧島サービスエリアの北東に広がるは場にあたる。霧島峯神社方面に北に通じる道路の西側(2-9は場)と東側(2-6は場)が対象区で前ノ山遺跡内である。確認調査では重機(バックホー)を使い2-9は場に3か所(T3~T5)、2-1は場(T1~T3)に2か所の2m×4mのトレンチ(試掘坑)を20m~30m間隔に入れて調査した。基本土層はI層:表土、II層:黒色土、III層:褐色土、IV層:暗褐色土(III層との差は然程ない)、V層:アカホヤ火山層(Ah)、VI層:灰色土…である。

調査したトレンチのうちT4、T5トレンチから深さ40cm~70cmのIII層(暗褐色土)上部で数個の土師器片が検出された。共伴の土器、石器類は検出されなかった。T4、T5トレンチの南はすでに1段下げられており土師器片が多量に採集される。

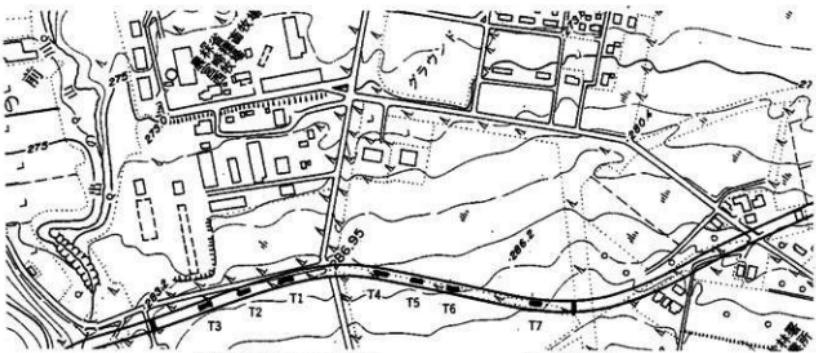
調査の結果、西牧場地区、東牧場地区とも西側半分の地点で土器の検出を見た。いずれも土器検出のトレンチを中心に遺跡の分布が想定される。

(永友良典)



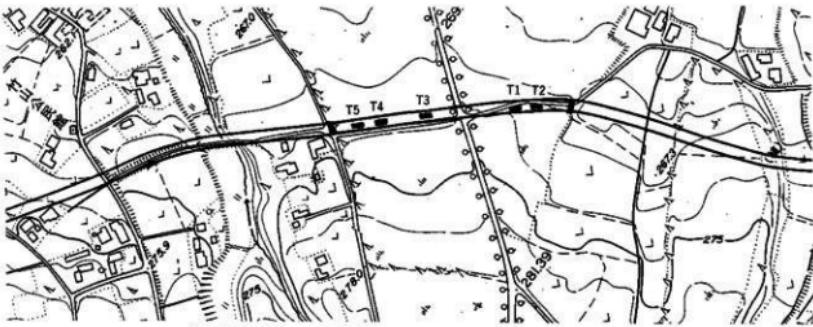
種畜牧場地区遺跡調査地図

S=1/50,000



西牧場地区トレンチ配置

S=1/5,000

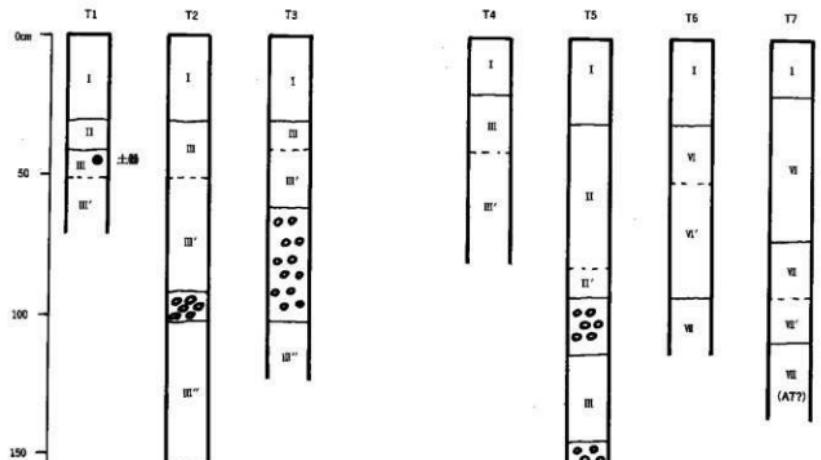


東牧場地区トレンチ配置

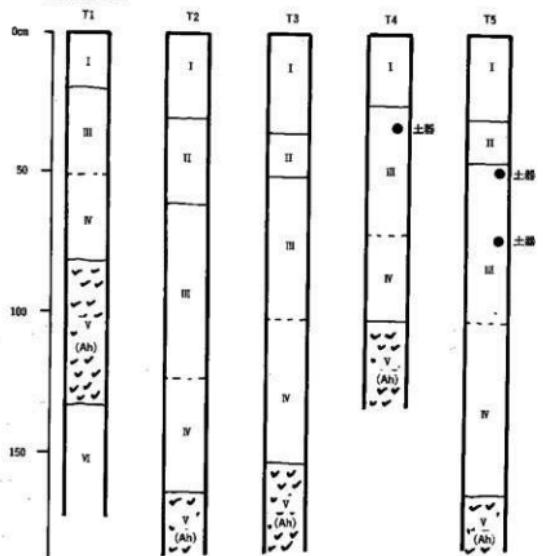
S=1/5,000

種畜牧場地区遺跡トレンチ配置図

西牧場地区



東牧場地区



種畜牧場地区遺跡土層図

## 第5節 川久保遺跡

### 1 遺跡の位置と調査に至る経緯

東臼杵郡西郷村の川久保遺跡は、村役場の西北西約3.9kmの耳川へと開けた狹隘な谷の奥の標高約170mの現在水田化された箇所に立地している。西郷村では、平成5年度より西郷地区県営中山間地域農村活性化総合整備事業が5カ年の計画で実施されている。川久保遺跡はこのうちの上川久保工区に所在する遺跡である。この事業は上川久保工区のはか小川工区、立石工区、払川工区の4工区約20.3haのは場整備を中心に平成9年度まで実施される予定である。

西郷村教育委員会では、現在遺跡詳細分布調査を実施中で、本年度になって上記事業区内に周知の遺跡が存在し、その外複数の遺跡の存在が予想されたことから、急遽工期の迫っている上川久保工区について県教育委員会で確認調査を実施することになった。調査は、県東臼杵農林振興局をはじめ西郷村農業振興課の協力を得て平成7年1月9日～19日までの間の5日間行った。

### 2 確認調査の概要

確認調査を行った川久保遺跡は、昭和30年代に実施された区画整理事業によって発見された遺跡で、この時は古墳時代の完形の小型丸底壺1点が出土している。今回の調査では、その当時の出土地点とされる箇所を中心に17本のトレンチを設定し、造構遺物の有無と残存状況の確認を行った。

なお、調査はすべて人力で行い、埋戻し作業も人力で行った。

調査の結果、遺跡は全体的に既に大規模な削平と改変を受けており、谷地形の堆積土の中から少量の土器片が出土したほかは造構遺物等は確認できなかった。また、山間地では通常盛土下に造構が残存する場合が多いが、ここでは盛土の下もかなりの削平を受けていた。

標準的な層序としては、15cm程の水田耕作土の下に酸化鉄、マンガン粒の見られる層があり、その下はすぐに削平された地山となっている。アカホヤ火山灰は谷地形の一部で二次堆積と考えられる状況で確認されたのみである。谷地形には古墳時代の土師器、縄文時代後期の土器など少量の遺物を包含した厚い堆積土が見られたが、直下は粘質の強い地山で開析され抉られている。

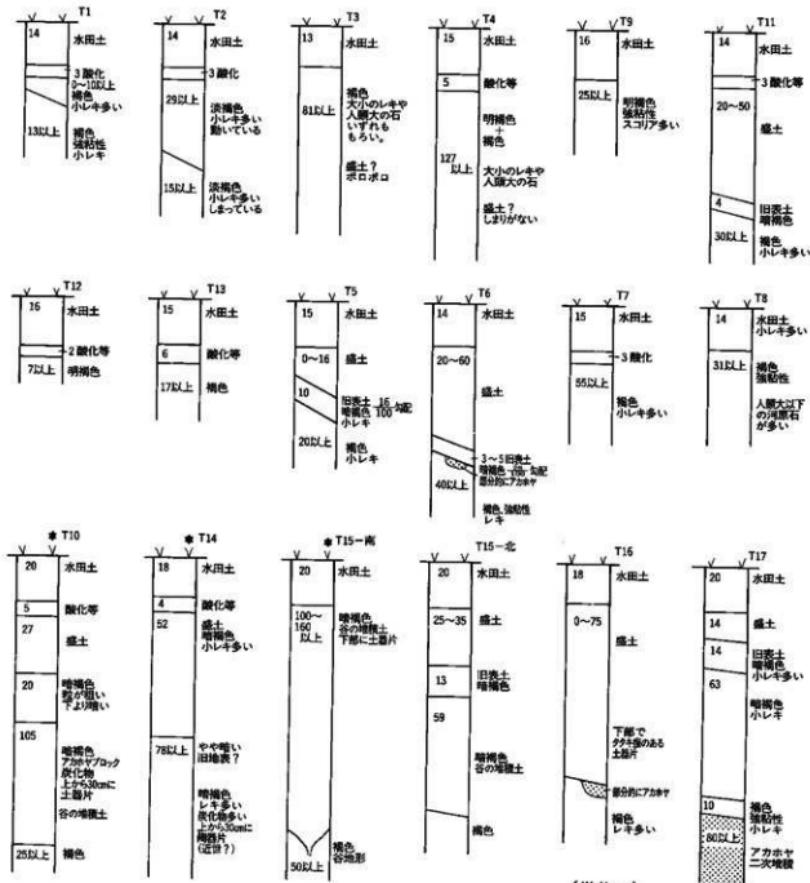
(菅付和樹)



川久保遺跡位置図 (1/50,000)



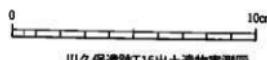
川久保遺跡トレンチ配置図



(単位 cm)

川久保遺跡土層柱状図

T16の盛土(客土)中出土。縄文時代後期後半の磨消縄文土器である。器面の風化が著しい。ナテ調整か。胴部上半に4条の沈線文。下2条の間と上2条の間(一部に縄文が残るが)は縄文がなで消され、中2条の間が縄文帯である。色調は鈍い黄橙色を呈す。



川久保遺跡T16出土遺物実測図

## 第6節 元野地区遺跡

### 1 遺跡の位置と調査に至る経緯

宮崎郡田野町の元野地区遺跡は、町役場の南西約3kmの標高約180m級のシラス台地一帯に分布している遺跡群の総称である。当該地区では、平成4年度より県営農地保全整備事業（特殊農地保全整備）が実施されており、これまでに町の遺跡詳細分布調査で高野原遺跡、本野遺跡、本野原遺跡、黒草第1遺跡、黒草第2遺跡など5遺跡が周知されている。そのうち本野遺跡と高野原遺跡は、当該事業に伴い町教育委員会による発掘調査が行われている。

平成6年度は、7年度事業予定地に所在する本野原遺跡と黒草第2遺跡について平成7年1月23日～2月3日の間の7日間、確認調査を行った。これらの遺跡は、昭和46年に宮崎大学史学研究部考古学班により試掘調査が行われた地点を含み、また、昭和53年に県教育委員会が九州縦貫自動車道宮崎線の建設に伴い発掘調査した箇所、平成6年度に九州農政局大淀川右岸農業水利事業のパイプライン敷設工事に伴い県教育委員会が発掘調査した箇所に隣接している。

### 2 確認調査の概要

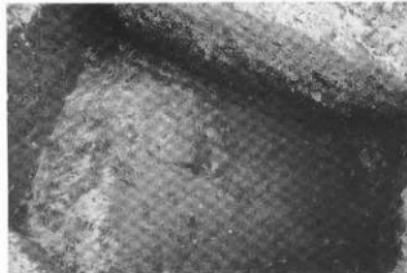
確認調査を行った本野原遺跡と黒草第2遺跡の一部は、以前から遺物が豊富に散布していることで有名な「黒草遺跡」の一部である。今回の調査でも土器片が多く散布する烟と既に削平されている烟が見られた。調査は、冬作のダイコンの収穫を終えた烟について地元の協力を得て実施した。この田野町の畑作地帯では夏作の葉タバコと冬作のダイコンとを冬作のダイコンとを作る農家が多く、確認調査もその収穫後、次の作付けまでの合間に実施するという時期的期間的に限定された中で行われる。調査はすべて人力で行い、埋戻し作業も人力で行った。

調査の結果、アカホヤ火山灰層の上で縄文時代後期～晩期にかけての包含層とアカホヤ火山灰層上面で当該時期の造構を確認できた。また、アカホヤ火山灰層の下には縄文時代早期の遺物や集石造構などを確認した。しかし、一部には既にかなりの削平やバックホーによる大規模な天地返しを受けている烟もあった。

基本層序は、次のとおりである。

- I層 耕作土。およそ25cm～45cmの厚みでII層の土が耕土化されている。主に暗褐色～黒褐色。
- II層 黒色～黒褐色～暗褐色～褐色を呈し、御池ボラ粒が混入する場合と見られない場合がある。また、造跡の北側の中位段丘面にはアカホヤ火山灰の二次堆積土も見られる。縄文時代後期中頃～晩期前半の土器や石器、焼石等が出土する。T15付近では、土師器も表面採集された。
- III層 アカホヤ火山灰層
- IV層 黒色～黒褐色を呈し、北側の中位段丘面では灰褐色となる。非常に硬い。小白斑が入ることもある。縄文時代早期の土器や石器、河原石の焼石が出土する。
- V層 黒褐色～暗褐色を呈し、褐色土の小ブロックを含むこともある。
- VI層 暗褐色～褐色。褐色土の場合は粘質土の場合と砂状のザラザラなものとが見られ、その上下関係は不明。赤い角礫を包含する。

(著者和樹)



T15検出土坑 遺物出土状況



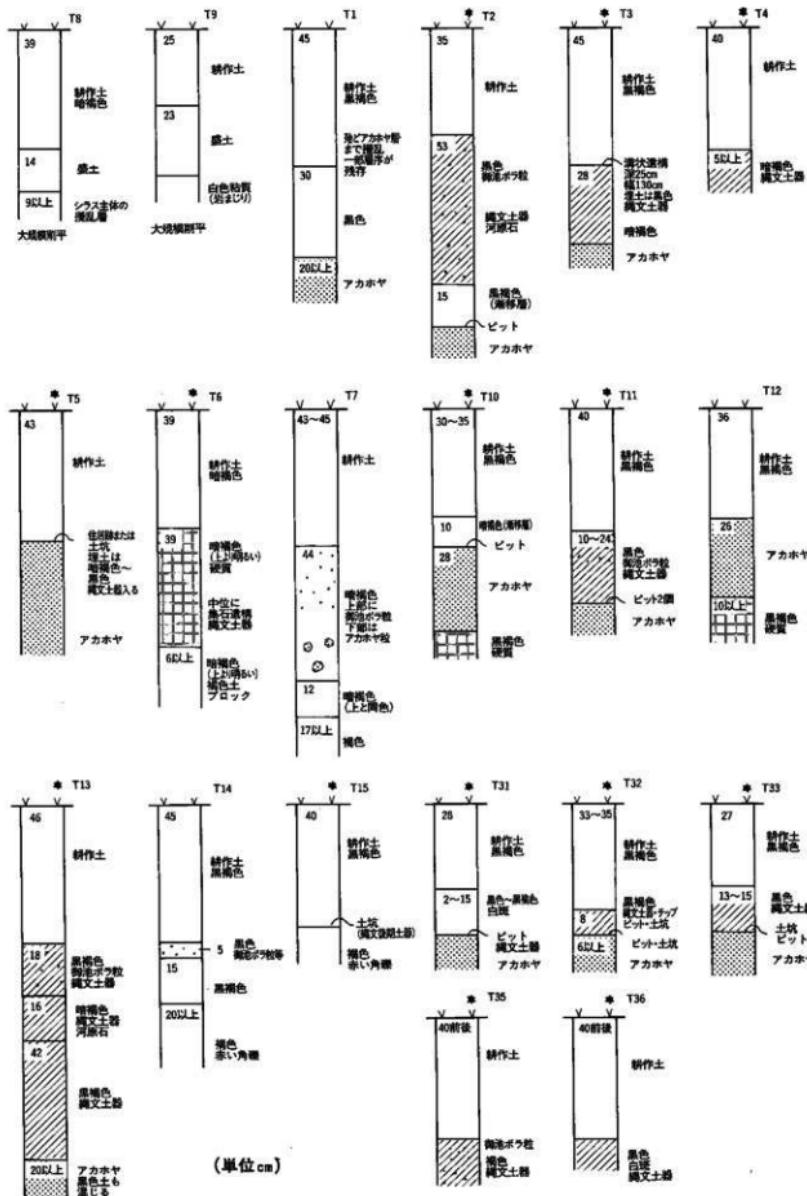
T22検出土坑



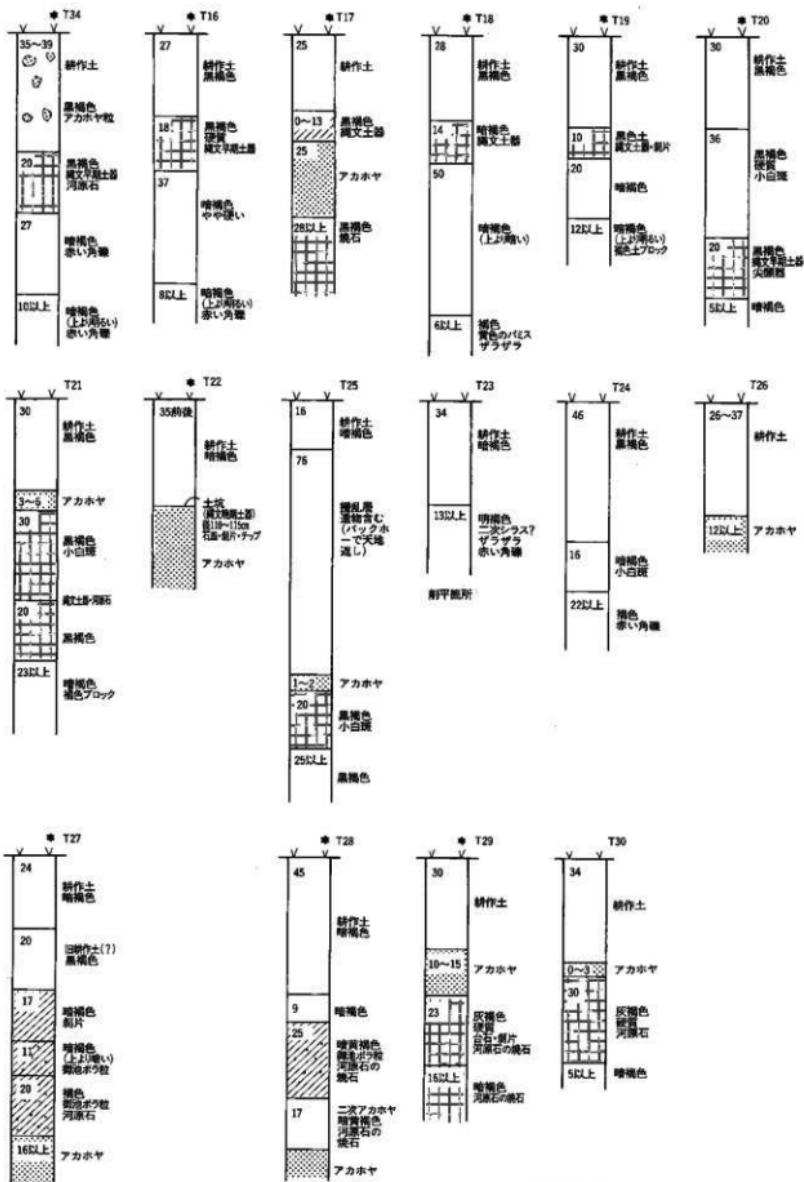
元野地区遺跡位置図



元野地区道路 レンズ配図  
※レンズの大きさは実際より大きい

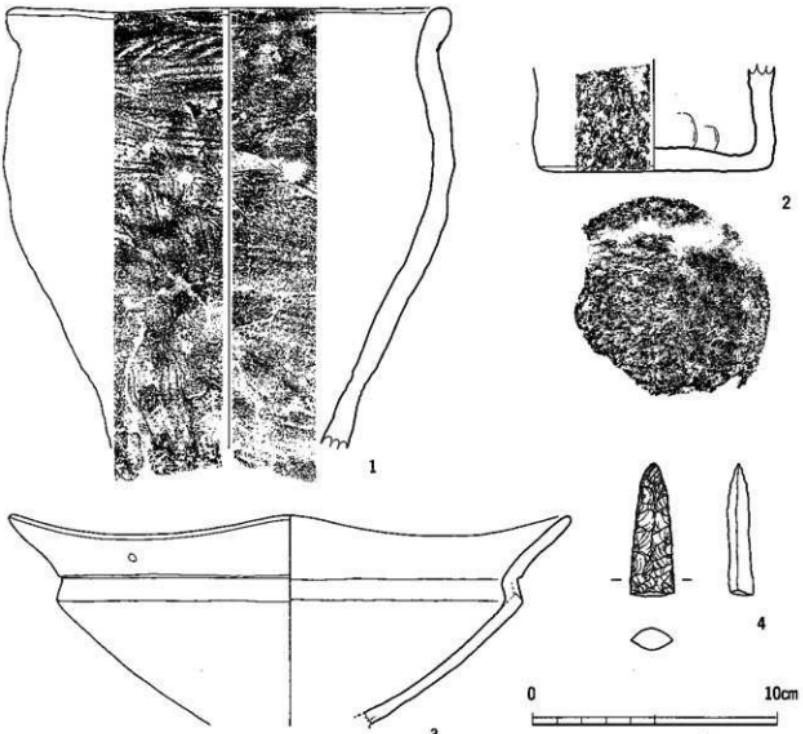


元野地区遺跡土層柱状図(1)



(単位 cm)

元野地区遺跡土層柱状図(2)



1~2 T15土坑出土 3 T22土坑出土 4 T20縄文時代早期層出土

#### 元野地区遺跡出土遺物実測図

1~2はT15の土坑上面出土の土器である。この土坑の埋土は耕作土に似ており、一見イモ穴(サツマイモを貯蔵しておく穴)と区別し難い状況であった。1は、やや外反した口縁端部が丸くおさまり、その下のくびれ部に貝殻腹縁による単純な連続刺突文を施すもので、その特徴から縄文時代後期前半の草野式土器と考えられる。2は底部で同一個体と思われる。器面調整は内面下半部がナデ、口縁部から外面胴部が貝殻条痕文、胴下部から底部にかけては部分的に貝殻条痕文が残るものナデ調整される。底部はほぼ均一の厚さで円筒状になる。外面胴部にはススが付着している。半完形である。3はT22の土坑出土の土器である。土坑の上部は耕作で削平されており、表土の直下で検出した。土坑上面には耕作機械で傷ついた石皿と3の半完形の土器、小土器片やチャート・黒曜石のチップなど多数の遺物が出土した。3は波状口縁の浅鉢形土器で、器面調整はすこし光沢はあるものの横ナデ痕が見られ割合丁寧なナデ調整である。底部直上で欠けており、底部は丸底ではなく平底状になると考えられる。口縁部の割れた箇所付近に穿孔が見られる。口縁端部内面から外面にかけて所々ススが付着している。器形から縄文時代晚期前半の古閉式期のものと思われる。4はT20で縄文時代早期の土器とともに出土した頁岩製と思われる尖頭器で、下部を欠く。

**平成6年度農業基盤整備事業に  
伴う発掘調査概要報告書**

南中講地区遺跡  
速日峰地区遺跡  
妙見原遺跡  
穂若牧場地区遺跡  
川久保遺跡  
元野地区遺跡

平成7年3月31日

編集：宮崎県文化課 宮崎市橋通東1-9-10  
0985(26)7250

発行：宮崎県教育委員会  
印刷：宮崎南印刷 宮崎市大字田吉350-1  
0985(52)2682